

2023年7月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比	2019年同月取扱高	2019年同月比
海外旅行	20,014,048	4,637,427	431.6%	31,146,960	64.3%
国内旅行	5,369,698	4,486,393	119.7%	5,265,358	102.0%
訪日旅行	647,978	24,967	2,595.3%	2,844,125	22.8%
合 計	26,031,724	9,148,787	284.5%	39,256,444	66.3%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ5社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデートラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。また、コロナ以前と比較するため、2019年同月比を記載しております。

■海外旅行

新型コロナウイルスが「5類」に移行されて以来、初めての夏のレジャーシーズンを迎えた7月出発において、20代・50代の女性を中心に、韓国の人気が高まっており、2019年同月比で110%と回復を牽引しました。また、LCCを利用したケアンズ行きのパッケージツアーが、お子様連れのファミリー層から選ばれており、2019年同月比で117%と好調に推移しました。その他、欧米・ハワイなど長距離方面が全体の半数以上を占めており、特に、フランス・イタリア・スイス・アメリカ西海岸が2019年同水準規模まで回復しており、主に20～30代と50～60代のご夫婦・カップルのお客様より支持されています。また、今年の2月に発生したトルコ・シリア大地震において、甚大な被害を受けたトルコへの復興を応援する施策として、トルコ行きツアーの旅行代金の一部を義援金としてトルコ大使館に寄付をさせていただく「HISトルコ応援キャンペーン」を通じて、2019年同月比174%まで取扱高を伸ばすなど、海外旅行市場の回復がみられました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比431.6%、2019年同月比64.3%の200億1,404万円となりました。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ >

方面別	2019年同月比
アジア	63.3%
オセアニア・南太平洋	78.8%
ハワイ・ミクロネシア	39.9%
欧州・中近東・アフリカ	77.6%
北米・中南米	80.4%

商品別	2019年同月比
手配旅行	69.9%
企画旅行	52.2%

チャネル別	2019年同月比
店舗	50.9%
オンライン	78.9%

■国内旅行

一部地域の全国旅行支援延長もあり、引き続き国内旅行の需要は高水準で推移いたしました。北海道では、新千歳空港国内線ターミナルビルに7月～9月の繁忙期に設置した「北海道コンシェルジュ カウンターデスク」のオープンや、東北北海道へのパッケージツアーにフォーカスした「大自然満喫 ひがし北海道」を通じて、他社との差別化を図るなど強化しました。特に体験・入場・グルメ・乗り物といった43のメニューから自由に選べるあそび放題パスポート付のツアーが好調で、2019年同月比において、知床が1,513%、釧路が490%となるなど、高い伸びをみせました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比119.7%、2019年同月比102.0%の53億6,969万円となりました。

■訪日旅行

日本全国のアクティビティ商品を掲載するHIS訪日Webサイトでは、53ヶ国からのご予約をいただいております。東京発の富士山・箱根を巡る1日バスツアーや大相撲を絡めた体験型のオプションツアーが人気を集めました。また、HISオランダ現地法人や北米の旅行会社をはじめとするB2Bを通じて、FITを中心に受客強化に努めました。グループ会社であるジャパンホリデートラベルでは、大半を占めていた中国からの受客が、一部渡航制限の影響を受け、本格的な回復には至っていないものの、夏限定となる花火大会日帰りツアーを関東・関西で実施し、好調に推移しました。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比2,595.3%、2019年同月比22.8%の6億4,797万円となりました。

2023年7月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比284.5%、2019年同月比66.3%の260億3,172万円となりました。

2023年7月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比	2019年同月取扱高	2019年同月比
インバウンド	12,141,325	5,892,867	206.0%	18,051,773	67.3%
アウトバウンド	14,528,012	9,679,900	150.1%	13,434,467	108.1%
合 計	26,669,337	15,572,767	171.3%	31,486,240	84.7%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 35 社と海外子会社 4 社（MIKI グループ、Merit Travel、Jonview Canada、Red Label Vacations）の社内取引相殺前の取扱高となります。また、2019 年は旧会計基準、2023 年のツアー商品は「進行日」、手配旅行は「手配完了日」に計上基準を変更した参考値となります。また、コロナ以前と比較するため、2019 年同月比を記載しております。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。
※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

■ 海外インバウンド

「Jonview Canada（※1）」では、先月より続くカナダでの山火事の影響により一部予約のキャンセルがあったものの、2019 年同月比 121%と海外インバウンド事業の取扱高を牽引しました。HIS 海外現地法人では、全体的にはメインである日本からの受客が 2019 年水準には届いていないものの、日本人の海外旅行需要がこの夏回復の兆しが見られたことにより、フランス・ドイツのほか、トルコ・ドバイ・ケニア・ニュージーランド・フィジーにおいて、2019 年同月比を上回り好調に推移したほか、今夏の人気旅行先の一つである韓国においても、2019 年同水準まで回復しました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 206.0%、2019 年同月比 67.3%の 121 億 4,132 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

ローカルのアウトバウンド事業を行う HIS 海外現地法人では、トルコ法人が、現地企業の業務渡航に加え、ローカルマーケットのレジャー旅行も好調に推移したことにより、2019 年同月比 280%と大幅な伸びをみせました。また、メキシコ・エジプト・ケニアにおいても、主に現地企業や日系企業の業務渡航需要や、法人顧客のレジャー旅行の獲得に努め、2019 年同月比を上回り好調に推移いたしました。「Red Label Vacations（※2）」では、2019 年同月比 130%と取扱高を牽引しました。「Merit Travel（※3）」においても、2019 年同月比 90%まで回復しております。

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 150.1%、2019 年同月比 108.1%の 145 億 2,801 万円となりました。

2023 年 7 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 171.3%、2019 年同月比 84.7%の 266 億 6,933 万円となりました。

※1）「Jonview Canada」

カナダを代表するツアーオペレーターとして、欧州からの受客を中心にインバウンド事業を展開。世界中の旅行業向けの商品やサービスを多数提供し、30 年以上にわたり事業展開する中で、カナダ国内の 2,000 以上を超えるサプライヤーと提携。

※2）「Red Label Vacations」

カナダを拠点にオンライン旅行販売とホールセラー事業を通じてアウトバウンド事業を展開。オンライン販売のブランド（redtag.ca と itravel2000.com）を通して、世界中のパッケージツアー、フライト、ホテル、周遊など、多様な旅行商品を提供。ホールセラーとしては、カナダの旅行代理店にあらゆる旅行商材を提供。

※3）「Merit Travel」

カナダ最大の旅行会社のひとつで、主にアウトバウンド事業を展開。熟練されたコンサルタントが、レジャー・ビジネス・ロイヤリティプログラムを通じて、様々なタイプの旅行者に向けて、付加価値の高いサービスを提供。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R室：050-1746-4188
 広報室：050-1746-4177